

二〇一五年度

入学試験問題

(二月一日午前)

国語

多摩大学附属聖ヶ丘中学校

- 一 開始の合図があるまで問題用紙・解答用紙にふれないでください。
- 二 開始の合図があつたら、最初に問題用紙九ページ、解答用紙二枚を確認してください。
- 三 解答用紙に受験番号と氏名を記入してから始めてください。
- 四 問題についての質問は受け付けません。印刷のはっきりしないところや用事がある時は、声を出さずに手をあげてください。
- 五 字数が指定されている問題は、句読点も一字として数えてください。
- 六 問題用紙は回収しません。
- 七 筆記用具の貸し借りはしないでください。
- 八 試験時間は五十分です。終了五分前になったら知らせます。
- 九 答案を書き終わっても座席からはなれないでください。

一

次の(1)～(5)の——線部の漢字をひらがなに、(6)～(10)の——線部のカタカナを漢字に改めなさい。

- (1) この店の店員は愛想がよい。
- (2) 地中の資源を探索する。
- (3) 多くの小説を著述した作家。
- (4) 額に汗して働く。
- (5) 正直さが私の身上だ。
- (6) 誤字がないように原稿をコウセイする。
- (7) 最も適した対策をコウじる。
- (8) 友人の結婚式でシュクジをのべる。
- (9) 優勝者に今のシンキョウを聞く。
- (10) 試合のセイセイが逆転する。

二

次の(1)～(5)の慣用句が()の意味になるように、□にあてはまる漢字一字として正しいものを、あとのア～オの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- (1) □が合う (気がよく合う。意気投合する。)
- (2) □を持たせる (人に名誉を譲る。その人を立てて功を譲る。)
- (3) □を差す (うまく進行している事などに、わきから邪魔をする。)
- (4) □を貸す (実力のある者が下の者の練習の相手をしてやる。)
- (5) □を洗う (悪い仲間から離れる。好ましくない生活をやめる。)

ア 馬 イ 足 ウ 花 エ 水 オ 胸

三

次のカタカナの文章を読んで、漢字とひらがなと読点を正しく用いて書き直しなさい。

キョウイクハソノクニノシヨウライニオオキクカカワツテクルモノデ

ス。イマノシャカイデハサマザマナキマリゴトヤセイダルイハカガ

クギジュツヲオウヨウシタタクサンノドウグヤセツビナドガオオキナ

ヤクワリヲハタシテイマス。ソノナカデイキテイクタメニハコレヲ

リカイシツカイコナスタメノチシキガカカセマセン。コトバヲテキセ

ツニコウカテキニツカッタリモノゴトヲロンリテキニカンガエタリス

ルタメノクンレンモジユウヨウデス。

四

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(なお、作問の都合上省略した部分があります。)

僕がいくつもの言葉を同時に勉強している、という話は先に書きました。そんな風に勉強していると、異なる言葉の間に共通点を見つけることがある。それがまた面白い。

似たような単語や言い回しを見つかったり、文法上の類似に気づいたり。ひとつの言葉に入り込みすぎず、客観的に見られるのがいいのかもしれない。

言葉の共通点が見えると、その先にある外国の「文化」が身近に感じられるようになります。イタリア、フランス、スペインは、やっぱりラテン文化なんだなあという感じがします。そして、その中でもイタリア語は感情的、フランス語はちょっとお洒落。それぞれに特徴があることに気づきます。これも外国語を勉強していて楽しい点のひとつだと思います。

① 外国語は一般的に表現がストレートです。それに比べて、日本語は繊細で表情が豊か。どちらが優れているというのではなく、それぞれの良さや利点があると思います。しかし外国語でコミュニケーションを取る場合は、その違いをある程度、頭に入れておく必要があります。

日本人はどうしても、自分の感情を隠して、思っていることを言わないことが多いですね。それは日本人の奥ゆかしさであり、日本語の特徴でもあると思います。でも、それが外国人にはなかなか理解してもらえないこともあります。

外国では、自分の主張をしっかりと言うことが重視されます。主張をぶつけ合って、納得のいく解決策を探る。

そういうやり方が好まれるのです。相手と言い合って認めさせるというのは、日本にはあまりない文化ですよ。

こちらでは、どうやって相手を納得させるか、どんな言い方をすれば理解してもらえるか、それをお互いが楽しんでいるようなところがあります。僕も最初はわからなかったのですが、それがわかってくると、(あ)することがだんだん面白く思えてきました。市場で値段交渉をするような感覚かもしれません。言いたいことをさんざん言い合って、最後に肩をポンポンと叩いておしまい。もちろん、実際に喧嘩になることもあるんですけどね。この時に大事なのは、通訳を介さずに自分の言葉で主張することです。

間に人が入れば、それだけ主張の中身が薄まってしまう。観光旅行なら通訳付きでもいいと思いますが、もっと深いところ

るでコミュニケーションするのであれば、自分の言葉で話すことが絶対に必要。

自分の言葉で向き合えば、相手が本当に言いたいことは何なのか、なぜそのように考えるのか、といったことも見えてくるはずです。そうした経験を重ねることで、その国の文化に対する理解も深まります。言葉を学ぶ、外国人とコミュニケーションをするということの先には、相手の文化を理解することがあります。

そこで初めて、相手と同じ土俵に立つことができると思います。

僕はゴールキーパーとして海外で成功するために、まず言葉を勉強しました。それはヨーロッパのサッカーと文化をしっかりと理解し、勝負の舞台上に上がるために必要だったからです。サッカー以外の部分は、すべてそのための準備と言ってもいいかもしれません。ヨーロッパのサッカーリーグで勝負するための準備です。

いくら語学を勉強しても、それを役立てなければ意味がありません。目的を持って勉強することで、言葉は生きたものになり、本当に身につくのだと思います。

誤解してはいけないのは、語学は目的を達成するために学ぶもの。決してその逆ではないということです。

日本は島国ですから、異文化同士が地続きになっているヨーロッパとは環境が異なります。だから外国語を勉強しなくても、とりあえず生きていくのに支障はありません。ところがヨーロッパの場合、異国同士が隣り合わせて存在し、国境を越えた人の行き来が頻繁です。最近では各国で移民問題が取り沙汰されたりもしています。だから、余計な争いや誤解を防ぐために、言葉が異なる人同士でのコミュニケーション術を発達させる必要もあったのだと思います。

同じアジアでも中国の人たちには見習うべきところがあると思います。ご存じかもしれませんが、世界中どこを旅しても出合うのが中華料理店。そこでは中国人が働いています。中国の人々は上手、下手は別として、その国の言葉をまがりなりにも話します。コミュニケーションを取るたくましさがあります。

僕自身、外国で暮らすようになって改めて実感しています。外国で生活し、ビジネスをする上での成功への近道は「その国の言語を話す」ことだと。エトランゼすなわち異邦人として敬遠されるか、受け入れられるかの違いは、その国の言葉を話せるか、話そうと努力しているか、といったところにあります。立場を置き換えてみれば、わかると思います。例えば、日本にやっ

てきた外国の方が一生懸命、日本語であなたに道をたずねてきた。はたまた、レストランで外国人のウェイターさんが日本語でオーダーをとってくれた。親近感がわきますよね。

四方を海に囲まれた私たちの国では、長い間良い意味でも悪い意味でも、いろんなことが国内で完結してきました。かつては、外の国々とコミュニケーションを図ることを禁じていた時代もありましたし、解禁となった後でも意外と近年に至るまで、一般レベルでは外国の方々とコミュニケーションを取る（い）が少なかったように思います。

そういう意味では、日本は少し特殊な環境といえるかもしれません。日本独自のやり方がどれだけ通用するかが問題になってきます。

実際にそういう状況に置かれると、日本で通用していたものが実は正解じゃない、というケースはよくあります。僕がイタリア留学で体験したカルチャーショックも、まさにそういうことでした。

ましてや現代は、色々なレベルで外国との接触を避けて通れない時代。価値観の異なる人間同士が、ひとつ屋根の下で暮らし、同じ土俵で戦わないといけません。ビジネスの世界でも、英語が話せなければ仕事にならない、なんてケースも増えてきていると思います。社内公用語を英語にする日本企業が出てきているのも、そんな国際化時代を象徴する出来事のひとつだと思います。

異文化を理解したり、コミュニケーションを取らなければならないという状況は、今後ますます増えてくると思います。それはもう、好き嫌いには関係ありません。僕が言うまでもなく、ビジネスの最前線で活躍されている方などは、すでに何度もそうした経験をされていることと思います。

これまでも色々書きましたが、僕もベルギーに住んでみたからこそわかったこと、気づいたことがたくさんあります。ニュースひとつ見ても、ヨーロッパは世界のニュースがスタンダードなのに、日本のニュース番組は、日本のニュースが中心です。これでは世界で何が起こっているかがわからなくなってしまうです。日本のスタンダードが世界のスタンダードとは限らないということを、僕たちはもっと知るべきなんだと思います。と同時に、震災の報道などで知られた、日本人の礼儀正しさや威厳に対する印象が尊敬の念を持って受け取られているというようなことも、もっと日本人に知られても良いのとも思います。

こんな風に、日本の良さも、遠くから眺めることによって改めて感じました。また、一年ではわからなかったことでも、二年住んでみるとわかる場合もありました。

実際に外へ出て、外国の人々と言葉を交わすと、見えてくるのが本当に多いと感じます。パッと視界が開けるような感覚です。今まで点だったものが、急に結びついて線になり、面になるような……。そういう感覚は、日本の中にいるだけではなかなか感じることはできなかったものだと思います。

(川島永嗣「本当に『英語を話したい』キミへ」より)

問一 本文中には次の一文が抜けています。どこに入りますか。直後の五字を抜き出して答えなさい。

移民国家であるアメリカも、基本的に同じだと思います。

問二 ——— 線部①「外国語は一般的に表現がストレートです」とありますが、それはなぜですか。その理由を本文中の言葉を用いて説明しなさい。

問三 本文中の(あ)にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 勉強 イ 議論 ウ 主張 エ 我慢

問四 ——— 線部②「その逆」とありますが、「逆」とはどういうことですか。説明しなさい。

問五 ——— 線部③「見習うべきところ」とありますが、それは何ですか。本文中から二〇字以内で抜き出して答えなさい。

問六 本文中の(い)にあてはまる言葉として最もふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 歴然性 イ 偶然性 ウ 当然性 エ 必然性

問七 ——— 線部④「特殊な環境」とありますが、その内容を最もよく表している語句を、本文中から抜き出して答えなさい。

問八

——線部⑤「日本で通用していたものが実は正解じゃない」とありますが、これと同じ内容を述べている部分を、本文中から二十五字以内で抜き出して答えなさい。

問九

本文の内容として正しいものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 外国語のストレートな表現は相手に伝わりやすいので、日本語よりも優れた言葉だと言える。

イ いくつもの外国語を同時に勉強するやり方は、語学の学習方法として有効だと言える。

ウ 外国人とのコミュニケーションの際に喧嘩を避けるためには、通訳を介することが大切である。

エ 日本人のコミュニケーション力が現在でも低いのは、外国との交流を禁止していた時代の影響である。

オ 日本人であっても、日本に住んでいるだけでは気づけない、日本の良いところと悪いところが沢山ある。

カ 外国語を身につけようと思うのであれば、まずその国のことを好きになることが大切である。

問十

——線部⑥「日本の良さ」とありますが、あなたの考える「日本の良さ」について二百字以内で述べなさい。

四

受験番号			

[illegible]

得点	
*	

*印のところは、何も記入しないでください。

小計 四

*

[illegible]